２.大聖寺地区の町屋の特徴

２－１．大聖寺地区の町屋の特徴（既往調査から整理）

●大聖寺地区は、旧加賀市の中で最も多く古民家が残る地区であり、中町では、昭和９年の大聖寺大火以降に建てられた建物が見られる。
●大聖寺の町屋は、「表の通りに直接面して家が建つ」、「隣どうし軒を接して建ち並ぶ」、「独立住宅である」といった特徴を有している。

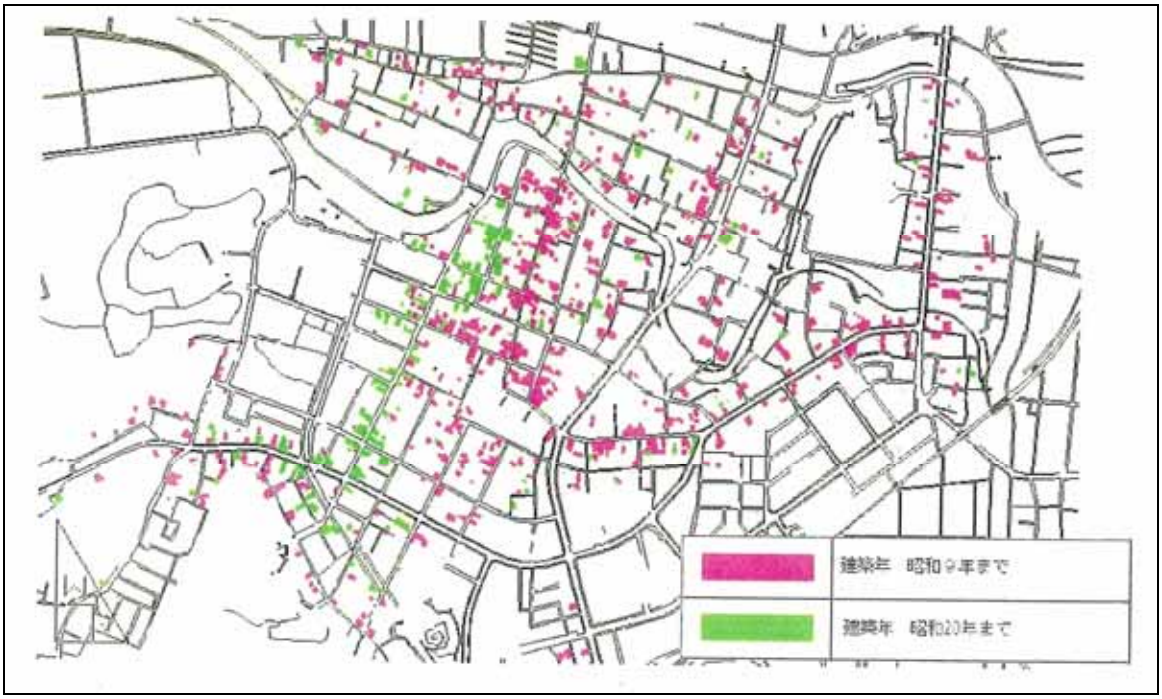
・「大聖寺における古民家の保全・再生・活用方策の検討（加賀古民家再生研究会、H15.3)」の調査結果に基づき、大聖寺地区における町屋の特徴を整理する。
・なお、上記調査においては、古民家について次のように定義している。

（１）江戸・明治時代の様式を残した建物
（２）昭和 20 年（1945 年）以前に建てられたもの

①建築年代別分布状況

・大聖寺地区における古民家は 978 件であり、加賀市の他の地区と比べて、最も多く古民家が残る地区として位置づけられる。
・建物の分布状況をみると、福田町、本町、山田町、荒町には、昭和９年以前の建物が見られ、中町の通りには、昭和 10 年から 20 年に建てられたものが多く見られる。これは、昭和９年の大聖寺大火の火元が中町であったためと思われる。

■建築年代別古民家の分布図■



資料：「大聖寺における古民家の保全・再生・活用方策の検討（H15.3)」

②大聖寺の町屋の特徴

町屋の建築形態の特徴として、以下の３点を挙げている。

（１）表の通りに直接面して家が建つ

都市商人の職住併用住宅で、道に面する表の部屋は店として使われる

（２）隣どうし軒を接して建ち並ぶ

通りに面して出きるだけ多くの人が住むために、間口方向に狭く割られた

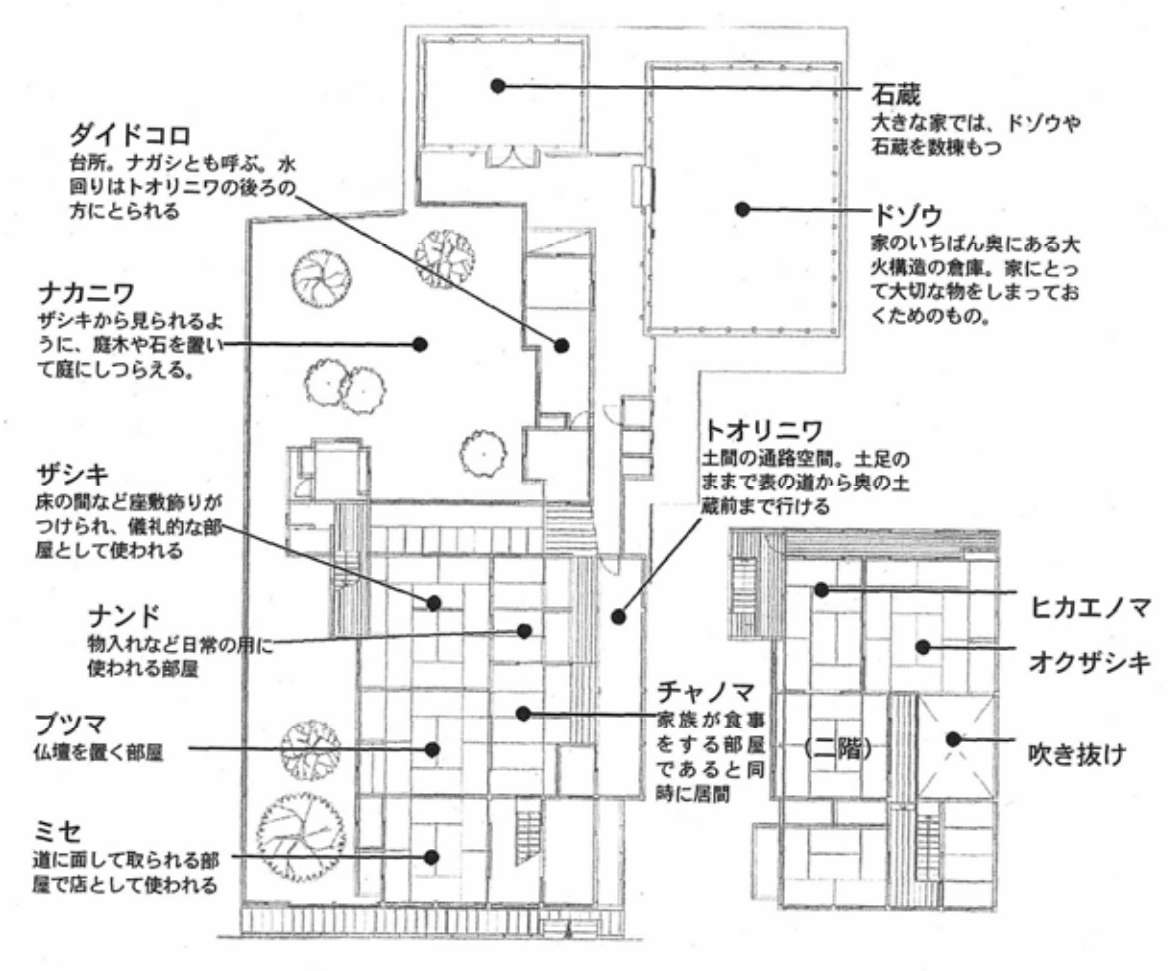
（３）独立住宅である

柱を共有する長屋とは異なる

■旧中木邸構え■

資料：「大聖寺における古民家の保全・再生・活用方策の検討（H15.3)」

■旧中木邸平面図■



資料：「大聖寺における古民家の保全・再生・活用方策の検討（H15.3）」

チャノマ

吹き抜け

ザシキ

２−２．歴史を語る町屋

●大聖寺地区では、有力商人らが暮らした町屋が残るほか、福田町では、古くからの町屋による趣のある町並みが形成されている。

・大聖寺地区は、城下町として形成されたが、前田利常の没後は、町人主体の町として発展し、有力商人らが暮らした町屋や古くからの町屋の町並みが現在も残されている。

・魚屋が多かったことが町名の由来となっている魚町は、魚屋町ともいわれ、商業の盛んな町で、米次（米屋次郎作家）こと小池家が昔の姿を残しており、鷹匠町には、高い塀や門を備え、中庭に銀杏の大木を持つ岡村家がある。また、山田町には、明治、大正期に織物業で勢力を発揮した清水惣八、清水孝平のニ軒が古い町屋の姿を残している。

・都市計画道路が通る福田町では、古い町屋が比較的残っており、趣のある町並みを形成している。また、公民館として町屋が利用されており、地域と密着した姿を見せている。

小池邸（魚町）

岡村邸（鷹匠町）

清水孝平邸（山田町）

清水惣八邸（山田町）

福田町の町並み

福田町公民館